



荻町合掌集落の景観に関する懇談会開催！！

去る7月2日夜、荻町公民館において、守る会が主催する見出しの懇談会を開催しました。これは平成19年に民宿連絡協議会より発案いただき、荻町の景観についての話し合いを行ったのがはじまりで、通算4回目の会合となります。今回は各種団体の代表者等14名が参加くださり、意義ある話し合いが行われました。以下にその概要をお伝えいたします。

□最近の観光および世界遺産の状況

○役場産業課観光係より

- ・読売新聞創刊135周年記念に行われた読者投票で、平成百景の5位に合掌集落が認定。知名度の高いメジャーな観光地となった。素晴らしい景観を守ってきたから今があることを忘れてはいけない。
- ・昨年の東海北陸自動車道全通以降観光客が増加（20年度の統計186万人）。観光客増によりゴミの投げ捨てが問題となっている。各店舗・自販機設置者はゴミの回収や回収容器の設置協力を。
- ・大型車両の進入規制は、9月より公安規制として実施。

○役場教育委員会文化財係より

- ・会長よりお話があったが、スペインで開催されたユネスコ世界遺産会議においてドイツの古都ドレスデンのエルベ渓谷が世界遺産抹消となった。遺産抹消はオマーン「アラビアオリックスの保護区」に次いで2件目。
- ・白川郷の定期モニタリングは、H24年度以降に実施の予定。
- ・荻町の景観に関わり、周辺の整備（寺尾・展望台）や防災計画（東京大学：合掌家屋の耐震評価、京都大学：地域防災力評価）、伝建見直し調査（九州大学・筑波大学）を進めている。



【ドレスデン、エルベ川の風景】

□各団体の取り組み状況

- ・民宿連絡協議会では、例年同様7月に荻町区内の巡視を行い景観保全に努める予定。私たちの投げかけで始まった懇談会であり、今後も継続していきたい。
- ・土産物組合では、総会等で経緯を話し合い、取り組みを進めている。
- ・飲食店組合では、総会等で経緯を話し合っているが、新しく商売を始めた人と古くから行っている人の考えに差があるため、足並みをそろえることが難しい現状にある。
- ・見学施設連絡協議会では、マスタープラン検討住民会議からの提唱をもとに、質の高い観光のあり方と景観保全について協議している。昨年に看板等をこれ以上増やさないと取り決めその方向に進んでいる。また、村内の店から出るゴミの回収に協力することを確認しあった。
- ・守る会では、自分たちでできることを継続している。元休耕田の耕作継続や景観保全の話し合い、ホームページや会報による広報活動を行っている。景観に関することは、守る会が中心となって進められるよう今後もがんばりたい。

□景観に関する意見交流

- ・看板については、よりよい景観を目指し、不要な看板は自主的に撤去する方向で協力をお願いしたい。
- ・荻町幹線道路の舗装や側溝に関わり検討会議を進めている。住民の意見を反映させ荻町の景観にあったものにしていきたい。それにあわせて、店の看板や営業のあり方も前向きにとらえて改善を。
- ・時代とともに店の形態も変化する。張り紙や装飾物がなくなるとわかりにくいのもかもしれないが、それをみんなが過剰に進めれば白川の景観は壊れてしまう。そのあたりを各団体で研究検討してほしい。
- ・仮設店舗は守る会でも昔から協議がなされてきた。景観を配慮し自粛の方向でお願いしている。公共施設の休む所が少なく私設の場所がその役割を担っている現状も理解している。難しい問題であるが、景観に配慮した検討と自粛をお願いしたい。
- ・店が増え続けることに問題があるが、それを止める権利はない。荻町の景観をよくするには、個々の認識を高め変えていくしかない。外部の圧力や罰則を科さないと守れないのであれば、世界遺産に生きる住民としての価値が失われてしまう。そうしなくても守ってきたところが荻町のよさであ

り、それが世界遺産を支えてきたのだから。

- ・串、空き缶、パンフや地図等のゴミ問題についても、景観のひとつとして協力して取り組みたい。

□今後の懇談会のあり方について

- ・結果のでない会議であるが、止めてしまったら後退してしまう。今後も問題点を前向きに考え、合掌家屋と農山村の景観を保全できてこそその活用であるという認識に立って、取り組みの継続を。
- ・エルベ溪谷の登録抹消は、景観を損なう橋の建設が発端となったのであるが、住民投票を実施し賛成多数で橋の建設が進められた。その結果、ユネスコの警告に反する行動となり登録抹消となった。これを白川郷に置き換えたとき、荻町住民や村が世界遺産を継承していく意志が無いとユネスコ委員の方々に判断されれば、同様に登録抹消の道を歩むしかないということである。先人が創り上げ今日まで継承してきた文化や景観を、子や孫の代へと継承していく使命が私たちにあることを自覚し、少しでも前向きに進む取り組みをお願いしたい。

[文責：和田]

合掌財団視察研修(宇陀市・明日香村)に行ってきました！！

7月6・7日の2日間、合掌財団主催の自治保存会育成事業視察研修が開催され、奈良県宇陀市・明日香村に行ってきました。参加者は総勢16名で、守る会の委員をはじめ、発展会や青年会、女性会からの参加者も多く、意義ある研修となりました。以下に研修の一部を紹介し参加報告といたします。

1日目・・・宇陀市松山は城下町から商家として発展してきた地区で、町家・洋館・社寺・土蔵等の伝建物が広範囲に分布しています。格子や土蔵の家並みが美しく、袖うだつと呼ばれる特色ある防火壁がみられました。平成18年に重伝建選定を受けた新しい伝建地区となります。保存会の皆さんと交流する機会も得ました。郷土への誇りと愛情を持った方々ばかりで、地域振興に成功した白川から学ぼうと様々な質問が飛び交いました。また、保存会の皆さんは比較的高齢であり、継承者不足に悩んでいます。白川からの研修メンバーに若者が大勢いることにも驚かれていました。次代を担う若者の参加をうれしく感じた一時でした。



[宇陀市伝建地区を視察]

2日目・・・明日香村は6世紀末に我が国初の律令国家体制が形成された地域であり、仏教や大陸文化が伝来し飛鳥文化が栄えた地域でもあります。これらの歴史的重要性から、この地区は昭和55年に明日香法と呼ばれる国の法律によって厳しく保存管理がなされてきました。また、高齢化による農地の荒廃を防ぎ地域振興につなげる手立てとして「あすか夢耕社」を設立し、農産物の商品化に力を入れている様子を学びました。観光客の多い白川村でも農産物を特産品化できる条件は十分にそろっていると感じました。売れる喜びが農地の活用につながり、農地の活用が景観の保全につながります。地場産品の開発や地産地消の重要性をあらためて強く感じて帰ってきました。

[文責：和田]

守る会の活動指針 (国際フォーラム白川郷宣言より)

- (1) 隣人にやさしい心豊かで安全な共同生活のいっそうの充実
- (2) かけがえのない美しい文化遺産の保全と未来への確かな継承
- (3) 国内外の人々との文化交流を通して友好の輪の拡大

＝ 6月の活動報告 ＝

- 6月 5日 合掌財団評議員会・助成金検討委員会 (副会長・事務局) 役員会 (旧寺口家にて)
- 6月 10日 荻町交流施設検討委員会及び6月定例会
- 6月 11日 ねそ6月号発行 (事務局)
- 6月 12日 NPO 白川郷自然共生フォーラム理事会 (会長)
- 6月 19日 トラスト旧寺口家会議 (会長・事務局) 白川BOX会議 (会長)

(8月の定例会は10日旧寺口家にて開催を予定しています。)

＝ 区民の皆様へ ＝

建物や土地などの現状を変更する場合は許可が必要です。必ず現状変更申請をして下さい。申請書は守る会定例会の2週間前までに、各組委員に内容を説明の上、委員又は財団に提出して下さい。このことは、遺産の保全と未来への継承のためとても重要なことです。皆様のご理解ご協力をお願いします。

☆7月の協議事項 (現状変更申請に関わって) ☆

- 荻町区・・・弘法堂建具取替
- *****・・・本屋東面外壁の補修
- *****・・・店舗庇雨樋取付
- *****・・・喫茶店北側ボイラー室撤去
- *****・・・工場東面階段の撤去
- 合掌財団・・・診療所 | Pカメラ設置